



Go West!

佐賀県立唐津西高等学校

学校だより NO.17 R4.12.15

【建学の精神】<sup>あした</sup>朝に希望 夕べに感謝

文責 学校長 下村 昌弘

E-Mail [shimomura-masahiro@education.saga.jp](mailto:shimomura-masahiro@education.saga.jp)

## 言葉は武器になるからこそ大切に —有明抄執筆者 中島義彦 氏 講演—

12月8日、3年生を対象に「さがを誇りに思う教育推進事業」の一環で佐賀新聞論説委員の中島義彦氏にご講演いただいた。有明抄の（義）の人と言えばその人が誰か分かるだろう。

中島氏は「言いたいことを先に書く」「読点を多用せず一文は短く」といった具体的な書き方を皮切りに「言葉はいい意味でも悪い意味でも武器になるから大切にしたい」と語った。

「吐く」は「口から出た+（プラス）と-（マイナス）。-を減らせば願いが叶う。「前」とは「後ろの反対」という言い方もできるが、「自分が信じて進む方向」「暗闇で光が見える方向」と自分の実感でも表現できる、など優しい言葉で深い内容を語っていただいた。

生徒からは「言葉の意味や表現することを大切にしたい前向きに考えていこうと思った」といった感想が寄せられた。

実は、中島氏は筆者の高校時代の同級生。彼は当時、サッカー部でスポーツマンだった。大学卒業後は佐賀新聞の記者として活躍していたが数年前に脳出血で半身まひに。そのあたりのことは〈支えられてーリハビリ日記ー〉（佐賀新聞掲載）に詳しい。

不自由な体ながら切々と語る姿に往年の誠実な人柄を思い出し心動いた。そして何より、まひの残る左足を半ば引きずりゆっくりとした歩みで退場する際、時間がかかったにもかかわらず、ずっと拍手をし続けてくれた3年生の諸君の温かさに感動した。

中島氏が帰り際に「言いそこなったからぜひ伝えて欲しい」と語った内容をここに書く。

「ぜひこの学校からも誰か新聞記者になって欲しい。自分の書いた言葉が広く読まれる、歴史に残る。記者の仕事は形として残るすごい仕事だ」。

最後に宿題。「あなたにとって『夢』とは?」。もちろん正解はない。要は自分の言葉で語ることが大事なのだ。提出は終わりましたか? 新年の有明抄に採用されるかも、だ。



## 5W1H型思考と課題解決型思考を体得せよ! —1年生総探のススメ—

12月12日、唐津市DXイノベーションセンターの梅野一樹（とがの・かずき）氏をお招きし、1年生を対象として課題解決型思考の演習を行った。

今回のテーマは「若者の唐津離れを食い止めるための唐津の魅力を発信する方法」。生徒が自分のアイデアをPCに入力し、講師がそれを適宜集約しアドバイスするという形で進められた。

講演のねらいは5W1H型思考と課題解決型思考の2つの考え方を学ぶこと。「理想」と「現実」のギャップから「課題」状況を整理し、その「課



題」を解決するために“誰が、いつ、どのように”するのかを考えるという内容だった。

梶野氏から最後に「一人一人の力が唐津を変える」とエールをもらった。地域社会の未来を担う西高生。課題解決型思考を学ぶと同時に、唐津に対する思いを新たにしたいようだ。

とはいえ、論理的に考えるのはなかなか難しい。1年生の下半期のSDGs課題解決学習ではこの2つの思考法を活用しながら自分の設定したテーマを“深掘り”して欲しい。

## “あんこ”に込められたその人の人生とは —クラス読書会で人生を“深掘り”—

12月8日、1・2年生はクラス読書会という形でクラスメイトと1冊の本を共有し、様々な角度から意見交換を行った。

課題図書は、1年生は原田マハ『永遠をさがしに』、2年生はドリアン助川『あん』。



日常的な読書は、国語の授業で小説を読むような分析的なアプローチではなく、ざっくりと主人公の変化を追いながら、そこに感動的な要素を見出すもの。「鳥肌が立った」「涙が出た」というのはその瞬間を感じた証拠だろう。

クラスごとに提出された読書会メモによると、2年生のあるクラスでは『あん』（どら焼きの“あんこ”）に象徴される人生の“壮絶さ”と“癒し”<sup>かいまみ</sup>を垣間見、人と人が寄り添いながら生きることの素晴らしさにたどり着いたあとが見られた。

タイトルからテーマを深掘りする手法はとてもいいアプローチの仕方だ。この方法はこれからの人生にきっと役立つだろう。

最初は押し付けられた本かもしれない。けれどいつかそれが必然に変わる日が来るもの。タイトルを見てその作品の本質的な部分を思い出せたらいい読書体験だったと言えるだろう。

## 夢は全国！ —高校弓道大会で上位入賞—

12月10日と11日、多久市緑が丘弓道場で佐賀県弓道大会 U-16・2年生大会が開催され、男子弓道部が U-16 で個人2位と団体3位、2年生大会で団体3位に輝いた。(U-16とはアンダー16歳の意。中学生を含めて参加可能)

本番ではいい緊張感で勝ち上がったが、最後は1本の壁に敗れ悔しい思いをした。選手たちは「結果的には試合のプレッシャーを楽しめた」が「3位と言えども悔しさは残る。春の大会では1位を目指してこの冬を頑張りぬきたい」と語った。

入賞メンバーは下のとおり。

<b>U-16 大会</b>	個人2位	川崎俊輔
	団体3位	末永惇・増本飛雅
		吉川泰蔵・川崎俊輔
<b>2年生大会</b>	団体3位	井上健太郎・小崎晃誠・川津宗永



<b>【12月後半の主な行事】</b>
12月16日(金) 三者面談(全学年) 22日まで
23日(金) 終業式
26日(月) 冬季特課 年内は28日まで
・冬季特課は1月5・6日も
・1・2年生は7・8日に県下一斉模試
・始業式は1月10日(火)